

一粒万倍。  
今回の種まきが、これから  
たくさんの実りをもたらす、  
そんな期待を抱かせる学校公  
開となりました。

十月七日(金)、我が母校、  
福島市立松川小学校・松陵中  
学校を会場に開催された、第  
四十回青少年赤十字福島県指  
導者協議会研修会並びに学校  
公開。当日は朝から快晴。二  
年間の両校の真摯な取組が天  
候さえも味方につけたようで  
した。福島県内外から三百名  
を越える皆様にご参加いただ  
き、盛会裏に公開を終えるこ  
とができたことに大きな安堵

を覚えています。  
今回、両校が目指したのは、  
「気づき、考え、実行する」  
児童・生徒の育成。松川小学  
校では各学年ごとに学級活動  
の話し合い、松陵中学校では生  
徒会各組織が行った「地域交  
流活動」の発表が行われまし  
た。

学校生活や自分の住む地域  
の暮らしを質的に向上させる  
ために、自分たちができるこ  
とについて「気づき、考え、  
実行する」場面が意図的に設  
定されていました。それぞれ  
の発達段階に応じた、J R C  
の「種まき」です。



青少年赤十字福島地区指導者協議会長  
福島市立福島第一小学校長  
齋藤吉成

種をまく。



青少年赤十字  
J R C ふくしま

編集発行

青少年赤十字  
福島県指導者協議会  
日本赤十字社福島県支部  
〒960-1197  
福島市永井川字北原田17  
TEL024(545)7998

人間を救うのは、人間だ。  
Our world. Your move.

種が芽を出し生長するよう  
に、成長した児童・生徒一人  
一人が、気づき、考え、実行  
する大人になります。この国  
のために、さらに日本とかか  
わりのある国々のために、自  
分ができることについて気づ  
き、考え、実行する大人に。  
そして、大人になった彼らが  
また、新たな種をまいてくれ  
ます。

すばらしい種まきをしてい  
ただいた両校教職員の皆様に  
改めて感謝いたします。

松川小学校の体育館には、  
福島地区の全ての学校が作成  
した、各校のJ R C活動を紹  
介するポスターが掲示されて  
いました。各校でさまざまな  
種まきが行われていることを  
うかがい知ることができまし  
た。

全体会では、千葉県の赤十  
字奉仕団支部指導講師稲積修  
様より、自身の豊かな経験に

基づく含蓄に富むお話をうか  
がうことができました。指導  
者の我々にも良質な種をまい  
ていただいた思いがしました。  
むすびに、今回の学校公開  
にあたりご協力をいただいた  
福島市立立子山小学校の今井  
不二子校長をはじめとする福

島地区各学校の実行委員の先  
生方、お昼の豚汁をご準備い  
ただいた佐倉赤十字奉仕団の  
皆様、会場のPTAの皆様  
など、ご支援いただいた多く  
の皆様にご礼を申し上げます。

ありがとうございました。



福島市立松川小学校長  
栗城智也

青少年赤十字の理念を  
子どもたちの姿に

本校では、青少年赤十字研  
究推進校として二年間の指定  
を受け、教育目標の具現化を  
図るために、「気づき、考え、  
実行する児童の育成」を研究  
主題に掲げ、「赤十字の精神  
を生かした特別活動を中心  
に据えて」という副主題を設定  
し、地域・保護者の方々のお  
力もお借りしながら、実践研  
究を推進してまいりました。

十月七日には、好天のもと、  
三百を超える参加者の方々に  
その取組の一部を公開するこ

とができました。当日の子ど  
もたちは、緊張よりも、多く  
のお客様の前で自己表現でき  
る喜びを味わうかのように、  
いつも以上に伸び伸びと主体  
的に学習に取り組んでいたよ  
うに思います。まさに、「気づ  
き、考え、実行」した半日で  
はなかったでしょうか。

全校児童四百二十三名が縦  
割りで構成する三十六班に分  
かれてのなかよし班活動では、  
ゲームや奉仕的活動など班の  
計画に沿って進められました。

学年集団だけでなく異年齢集団での交流活動は、新たな人間関係を育み、各年代の発達観を実感し次の行動へとつながるものと考えています。

研究授業では、全学年、学級活動を公開しました。参観後の感想では、お褒めの言葉など肯定的なご意見を数多く頂戴し、恐縮したところです。学習過程で「気づき、考え、実行する」プロセスを重視すること、実践目標との関連を図りながら学級・学校におけるよりよい生活作りや人間関係の育成につながるものと考え実践を重ねてきました。

## 気づき・考え・実行する 児童の育成をめざして

福島市立松川小学校 研修主任 佐久間 美智子

本校は、青少年赤十字の研究推進校として二年間の指定を受け、研究主題を「気づき、考え、実行する児童の育成」、副主題を「赤十字の精神を生かした特別活動を中心に据えて」とし、教育活動を展開し

先行きの見えない社会の中で、一人ひとりの子どもたちに真に生きる力の育成を図る上で、青少年赤十字の役割はますます重要になってくるものと考えます。教職員一同、参会された先生方から頂戴しましたご意見や感想等を、青少年赤十字の理念を生かした今後の実践に生かしてまいりたいと考えております。

標との関連を明確にし「気づき、考え、実行する」手立てを工夫し、授業実践を重ねてきました。その成果の一つとしては、自分だけでなく友だちの考えのよさに目を向け話し合ったり、友だちと協力しながら問題解決に主体的に取り組んだりする力が育ってきたことが挙げられます。

二年次は、学級活動の授業で育んだ力を活かす実践的な場として、行事や児童会活動、縦割り等の交流活動の充実に力を入れてきました。

委員会活動では、ボランティア活動を位置付け、これまでの活動の見直しを図りました。「先生から言われたからやるのでは、本当の活動にならない。自分たちで決めて、自分たちで進んでやることに意味があるのでは。」という発言で始

まった代表委員会のあいさつ運動は、たちまち全校生に広がり、明るいあいさつの声が校舎内外に響くようになりました。また、委員会活動の掲示板を活用した情報発信は、各委員会の活動への関心を高め、感謝の気持ちをもったり、



形を変えて自分たちの学級にも取り入れようとしたりするなど、大きな効果が見られました。学級単位のミニボランティア活動も活発に行われ、廊下や階段、水道の回りのお掃除等、友だちと一緒に進んで取り組む姿がたくさん見られるようになりました。

月に一回の縦割りの交流活動では、高学年がリーダーシップをとり、集団遊びやミニボランティアの計画・準備・運営に責任を持って取り組んでいました。回を経るごとに、内容が工夫され、班のまとまりや結びつきが強くなりしました。活動のふり返りとして掲示したメッセージカードには、



楽しい企画を考えてくれた上級生への感謝の気持ちが綴られ、それはみんなを喜ばせようとする上級生の原動力にもなりました。

意識調査の結果からは、自分や友だちのよさに目を向け、肯定的に受け止めている児童が増えていることや学校や友だちのために自分ができるとをいつもやろうとしている児童の割合が増えていることが分かり、研究の成果がうかがえました。

青少年赤十字研究推進校となり、何から始めたらいのか、まさに手探り状態で進めてきた研究ではありましたが、教職員一丸となり、赤十字の



精神を学び、「気づき・考え・実行する」児童の育成に、できるところから地道に取り組んできたことは、現在の子どもたちの生き生きとした表情や

姿に表れていると思います。これからも様々な教育活動に青少年赤十字の精神を活かし、教育目標の具現化に取り組んでいきたいと思っています。

## 地域の「一員」として



福島市立松陵中学校長

金子 洋 一

「松川町を変えたい」「地域のために何かできないか」という生徒たちの熱い想いからスタートした地域交流活動です。生徒が地域に出かけた

具体的には、一年生から三年生の縦割りで構成されている十一の生徒会専門委員会が、各委員会の特性に応じた活動を計画し、土曜授業の中で実践してきました。地域の様々な年代の方々と意見交換をした「異世代サミット」、老人福祉施設や幼稚園・保育所訪問、ゲートボール協会や敬老会との交流、地域清掃や農業体験、町行事への参加など、関係団体の皆様のご協力により様々な活動を行ってき

た。また、分科会では、貴重な意見やご助言をいただきましたこと、そして、本校の活動に対して称賛の言葉をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

この研究実践を通して、生徒たちは地域の「一員」として、地域のために何ができるかを主体的に考え、地域の現状やニーズに気づき、具体的な形で実行に移すことができました。そのことが地域の方々に受け入れられたことで、成就感や達成感を得ることもでき、新たな活動への意欲にもつながっています。また、今回の研究公開に、町商工会の会長さんと副会長さんが飛び入りで参加していただいたこと、ご招待した関係団体の方々に数多く参観いただけたことは、地域との絆が深まってきた表れと大変嬉しく感じています。

活動時間の確保や活動への想いの継承など課題はありますが、この地域交流活動をしつかり根付かせていきたいと思っています。

## 地域との関わりを通して

福島市立松陵中学校 研修主任 山崎 充 浩

本校が、研究の柱としたことが二つあります。一つは、「地域交流活動」です。中学生という年代は、社会に対して視野が広がっていき、自分の住む地域に対する関わりが薄れていく傾向にもあります。本校でも地域との関わりを大切にしたいと考え、取り組んできましたが、なかなか効果的な手立てを見いだせずにいました。

我々教師にとっても、この活動は初めての試みで「気づき、考え、実行する」ことを意識して取り組みました。また、生徒の主体的な活動を促すには、教師が待ちの姿勢を保つことが大切であることを共通認識として進めました。

「地域交流活動」は、我々

そこで、生徒の活動の場を地域とし、学校から生徒を出して、地域の方々との異世代交流を行うことを企画しました。異世代の方と活動するということは多くの生徒にとって初めてのことであり、解決しなければならぬ課題が必ず生じます。それを解決していくのですが、その取り組みを生徒会専門委員会が行うこととしました。委員会は「縦割り」での活動です。三年生がリーダーとして、課題に気



## 私たちの地域交流活動

福島市立松陵中学校 三年 渡 辺 南

が考えていた以上に地域の方からの反響があり、地域の期待を生徒が肌で感じることができました。生徒は成就感や達成感を得ることができ、やればできるという有能感も生じました。

研究の柱の一つが、地域交流活動を支える「奉仕」

松陵中学校では、昨年度から地域交流活動を行っていています。地域交流活動の始まりは、当時の生徒会長の気づきからでした。前会長は、一昨年に開催された全国生徒会サミットに参加しました。参加者共通の課題として出たキーワードが「つながり」だったそうです。そこで、前会長も自分の住む松川町について考え、私達中学生の力で地域のためにアクションを起こしたいと強く思ったそうです。最初は、そんなことできるわけ

の心の育成です。青少年赤十字の実践目標の一つである「奉仕」に着目し、道徳・学級活動で重点的に取り上げて豊かな心と実践力を持つ生徒を育成しようと図ったものです。「地域交流活動」という生徒共通の取り組みを土台として他者への思いやりや郷土

愛などを考えることができ、大変効果的でした。

今回の取り組みは、生徒の大きな成長として結果しました。これからも松川地区との関わり大切にしたい取り組みを推進していきたいと思っています。

各専門委員長だけでやればいいのかという意見もありました。しかし、前会長は全校生でやらなければ意味が無いと考え、全校集会で「一緒に松川を変えよう」と、全校生に熱く訴えかけました。

そして、土曜授業の時間を使い、これまでに四回の地域交流活動を行ってきました。幼稚園訪問や、老人クラブの方との読書交流など様々な面で地域の方々と触れ合うことで松陵中生は大きく成長することができました。活動から、多くの気づきを得て、一



人ひとりが真剣に郷土について考えアクションを起こすことができました。これは、この活動をやっていなかったらできなかった経験です。この活動は、自分たちの気づきから始まった主体的な活動です。これからも継続して取り組んでいきたいと思っています。

## 青少年赤十字作品募集

## 『詩』・『100文字提案』





## 青少年赤十字作品募集『詩』・『100文字提案』

青少年赤十字作品募集は「青少年赤十字活動の活性化と意識を高めること」を目的にして平成十八年から今年度で十一回目の募集となります。平成二十四年からは、海外の赤十字から寄せられた救援金で行われている「東日本大震災復興支援推進事業」の一つとして実施されています。

最優秀作品に選ばれた作品より「日本赤十字社社長賞」「日本赤十字社福島県支部長賞」が選ばれ、その他に「青少年赤十字福島県指導者協議会長賞」「福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞」が選ばれます。また長年にわたり作品を応募した学校に「学校奨励賞」、その他に「学校賞」を設定し選考されました。

審査員の労力と時間をかけて慎重に行われ、各賞が決定しました。社長賞等を含む、最優秀賞、学校賞、学校奨励賞の表彰式は十二月二十六日(月)に日赤県支部において受賞者とその保護者、審査員、学校関係者が参加して行われ、野崎洋一事務局長から受賞者に賞状と盾が手渡されました。式の中で受賞作品が本人から披露され、感慨深いものとなりました。最後に藤田伸朔審査委員長から各受賞作品についてそれぞれ温かい講評があり、これからの目標や励みになったのではないのでしょうか。

今年度も積極的に応募いただいた学校、適切な指導を頂きました指導者の方々、たくさん応募いただいた児童、生徒の皆さんに感謝と御礼を申し上げます。社長賞、支部長賞、青少年赤十字福島県指導者協議会長賞、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞を受賞した四人の方々から受賞の感想をいただきました。



社長賞

ふるふり

福島市立福島第一中学校 三年 庄司 礼実



今では除染された土が入った黒い袋だらけです。見渡せば緑で包まれていた飯館村は、今はもう無いのです。その光景を見て、私は思いました。

震災の影響を見て悲しむくらいなら、今を精一杯生きてやろう、と。私達は今、悲しんでいる場合ではないのです。いつ戻れるかわからないのなら、今を存分に生きるほかありません。私は信じています。いつか絶対元の村へ戻り、以前と変わらぬ暮らしをすることを。信じているから強く生きることが出来るのだと思います。今は何の手助けも出来ませんが、この故郷に戻りたいという小さな願いが復興へと繋がる一歩だと思っています。もちろん、帰りたいと思っています。私の他に山ほどいます。その方々も今を精一杯に歩んでいます。負けないように生きています。私は強く生きます。何にも負けないように。待っている故郷のために。今回この賞を頂き、より強く思いました。今私に出来ることを、全力でやり、そしてより大きく成長した自分になり故郷へ戻りたいです。故郷は待っています、強くなった私を待っています。そのための震災だったのだと、私は思います。

日本赤十字社社長賞

「福島・日本・世界のために

わたしがしたいこと、  
できること」

福島市立福島第一中学校

三年 庄司 礼実

声がしない町

誰もいない町  
私のふるさと戻りたい 戻れない  
でも今は 精一杯に  
強く生きるだけ願いが届くその日まで  
この一瞬を過ごそう待っててね  
私のふるさと

## たった一つの命と家族

小野町立浮金小学校 六年 大和田夏紀



東日本大震災、私は、どれほどの人が家族を亡くしてしまったのか、考えてみました。調べてみると、考えていたよりもはるかにたくさんの方が家族を亡くしてしまっていました。そんな中、私には、父も母も妹もいて、命もあります。震災では、家族がそばにいて、共に生きていくことができるのありがたいが、とてもよく分かりました。これからも大切なたった一つの命を大切に、地域の人たちにたくさん笑顔分けて、幸せに生きていきたいです。



日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

小野町立浮金小学校

六年 大和田夏紀

私は子供 子供だ

子供だけに

何もできない

子供じゃない

どうしてって

命があるから

お母さん達が

つないでくれた

命があるから

だから 地域の人に

あいさつを返せる

笑顔に分けられる

これからも

笑顔をふりまいて

大切にしたい

たった一つの命を

## いのちの大切さ

福島県立白河旭高等学校 一年 森 拓海



私は、このいのちの詩を書いて、改めていのちの大切さを感じました。

私にとっていのちとは、他

人の力だけでは維持

できず、自分の強い

意志が合わさって成

立するものだと思います。

自分ひとりでは生き

ていくのではなく、

強い意志と良き仲間

を持つて生きること

が大切です。これか

らもがんばりたいで

す。

## 蛙とおどろきの再会

郡山市立富田東小学校 四年 志田 柚季



生き物が好きな私は、中でも蛙が大好きです。つかまえて観察したり、夏の夜に鳴き声を楽しんだりしてきまし

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞  
「いのちの詩・愛の詩」

福島県立白河旭高等学校  
一年 森 拓海

拓海

いのちの「い」は

生きるの「い」

いのちの「の」は

のりきるの「の」

いのちの「ち」は

力の「ち」

いのちとは

ただ生きることではない

ちからづく

生きることである

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

「わたしが感動したことばやできごと」

郡山市立富田東小学校

四年 志田 柚季

肌寒い四月の朝、

風もなくパンジーの葉がゆれていた。

そつとかき分けると

「あつ、蛙だ！」

田んぼが消えて、もう会えないと思っ

ていた蛙。

庭に冬眠してくれていたおどろきと

うれしさで、

私の心も「びよん」とはねた。

## 平成二十八年度

## 青少年赤十字国際交流集会

JRCC/RCY International Meeting, Tokyo 2016

日本赤十字社では青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」の具体的な活動の機会として海外と日本の青少年赤十字メンバーが直接交流できる国際交流集会をおこなっています。

今年度は十一月三日から十一月六日までの四日間、アジア・太平洋州の二十一の国や地域から三十九名の青少年赤十字・赤新月メンバーが、日本全国からの三十八名の青少年赤十字メンバーとオリンピックセンターで相互に意見を交換し、活動の紹介や文化交流を行い青少年赤十字のリーダーシップを学びました。福島県からは県南地区から一名、指導スタッフとして一名の教師が参加し有意義な交流活動が行われました。

また、今年度は東日本大震災以降初めて海外メンバーが福島県を訪れました。国際交流に参加する海外メンバーが各県を訪問し親睦を深めるもので、福島には十月二十九日から十一月三日までの六日間、フィリピンから二名の青少年赤十字メンバーが県北、県南地区を中心に学校訪問やホームステイなどを行い福島県メンバーとの交流を深めました。

## 平成二十八年度青少年赤十字国際交流事業

## Tokyo 2016に参加して

福島県立あさか開成高等学校 一年 西條 萌

私は青少年赤十字国際交流事業 Tokyo 2016に参加して、普段生活しているだけでは気付くことができないことを多く学ぶことができました。中でも印象に

残ったプログラムが三つあります。

一つ目はグループディスカッションです。各HRで災害やその対策について考えました。私のHRは、東ティ

モール、バングラディッシュ、中国、ラオスの海外メンバーを含む八名で構成されていました。私のHRでは洪水問題への対策について話し合いました。災害の危険性や防災に関する講演会に加え、植林活動などについて継続的な実施が可能か検討しました。他にも防災の歌を作って身近な防災を考えたHRや、モンゴル

特有の冷害に着目したHRもありました。住んでいる人だからこそ気づくことができる災害対策が出され、とても勉強になりました。

二つ目は元ラジオ福島アナウンサーの大和田新さんの「伝えることの大切さ伝わることの素晴らしさ」という講演です。内容は津波の犠牲者の話や飯館村の実情、風評被害など福島県のお話でした。改めて震災の恐ろしさや福島

県の復興がまだまだ進んでいないことがわかりました。福島県民として震災について理解を深め、発信する必要性を痛感しました。

三つ目は海外メンバーの青少年赤十字活動紹介です。災害にあつた子供達のためにギフトボックスを送る活動や、日本と共同して取り組んでいる植林事業など、大変興味深いものばかりでした。

研修中、言葉の壁

にぶつかることもありましたが、お互いに理解しよう心がけたことに加え、語学ボランティアの方々にも助けて頂きました。言葉を使いこなせればもっと深く相手を理解し、議論も進んだと思います。今後の課題として取り組んでいきたいと思っています。このプログラムを通して感じた人との繋がりの大切さを忘れず、今後の活動に活かしていきたいと思っています。





## Tokyo 2016 に参加して

福島県立福島東高等学校 松本 仁子



今回の国際交流集会は、青少年赤十字の実践目標の一つである「国際交流・親善」のもと「防災教育・災害対応」をテーマに行われました。

アジア太平洋の国と地域からと日本全国から集まったメンバーが八人程度の H R にわかれ、自分の国に起こる災害について発表し合い、ディスカッションが始まりました。初めは国について考えていま

したが、メンバーが仲良くならにつれ目の前にいる友達がとても困った状態になるのではないかという具体的なイメージになり、より思いやりのある人道的な行動を考えるようになったのはとても嬉しく思います。

J R C にはたくさんの魅力的なプログラムがあります。私はこの「国際交流集会」が一番好きです。高校生という多感な時期に世界の仲間と友情が育まれ、広い視野を持ち深い信頼でつながることは未来の世界平和を約束し合っているようなそんな思いになります。

今回話し合った「災害への関心を高め、防災に取り組む」ことを世界中の J R C の仲間と力を合わせて取り組んでいきたいと思います。百人の一人は一人の百歩に勝る。

平成二十八年度青少年赤十字国際交流事業における海外青少年赤十字メンバーの受け入れに伴い、フィリピンから二人のユースメンバーが福島にやってきました。震災以降、六年ぶりの福島訪問です。ダニカ（十九歳大学生）とジェフ（十六歳高校生）の二人は福島市の除染プラザを見学し、原発事故や除染の様子、風評被害などについて学んだあと県内の J R C メンバーと交流しました。書道や着付け、生け花など日本文化に触れ、またフィリピンの青少年赤十字の様子や民族舞踊を披露するなど互いに充実した交流することが出来ました。

ホームステイも体験し、日本の生活習慣やホストファミリーとの友好を深め忘れられない思い出を作ることが出来たのではないかと思います。

## フィリピンメンバー

Jeff Michael

(男子 16歳 キリノ総合高等学校 高等部)

Danica Joyce

(女子 19歳 ミンダナオ国際大学)



## 震災以降六年ぶり

十月二十九日(土)～十一月三日(木)

## フィリピンユースメンバー福島訪問

## フィリピンメンバー福島での日程

10月29日(土)	●福島着 福島市内	●除染プラザ見学 ホームステイ	●四季の里(こけしの絵付け)
10月30日(日)	●県北 JRC メンバーと駅前清掃 ●県北 JRC メンバーと交流会(浴衣の着付、書道、フィリピンの民族舞踊)	福島市内	ホームステイ
10月31日(月)	●あさか開成高等学校(授業参加 華道・書道) ●中央学習センター JRC メンバーとの交流会(調理、昼食、日本の伝統遊び)	郡山市内	ホームステイ
11月1日(火)	●県立光南高等学校(行事参加 JRC メンバーとの交流)	福島市内	ホームステイ
11月2日(水)	●福島第一小学校(避難訓練、給食試食) ●学法福島高校(クラブ見学)	●福島東稜高校(授業参加、学校見学)	●日赤病院見学
11月3日(木)	●福島発	オリンピックセンター	





大学で日本語を勉強しているダニカと民族舞踊のインストラクターも務めるジェフ、とにかく明るくフレンドリーな二人は初日から福島のメンバーと一緒に P P A P を歌って踊るなど、あつという間に福島のメンバーに溶け込みました。一方で除染プラザでは真剣に説明に耳を傾け、質問をするなど積極的に福島の現状について学ぼうとする意欲がみられました。

学校訪問や J R C メンバー

## フィリピンメンバーを受け入れて

福島東稜高等学校 二年 氏家 るな

との交流、ホームステイでは日本文化に触れると共に、温かい心の交流が出来たのではないかと思います。「福島のことをきちんとフィリピンのメンバーに伝えます」という

言葉とつぶやきの笑顔を残して福島を後にしました。ご協力いただきましたご家庭、学校等関係各位に心より感謝し御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成二十八年度青少年赤十字国際交流事業 Tokyo

2016 に参加をするため、日本に訪れたフィリピンメンバー二人が一週間福島県で過ごしました。そのうちの三日間、私の家にメンバーのひとりのダニカさんがホームステイをしました。

最初の日は、ダニカさんの歓迎会をしました。日本の食事が食べられるか分かりませんでした。親がたくさんの料理を作ってくれました。ダニカさんが日本食をおいしそうに食べてくれたので、ホッとしました。



次の日は、朝少し早く起きて、私の家の広場へ行きリンゴ狩りをしました。コッが分かったと楽しそうに採ってくれて良い経験になったと思います。

す。その後、MS (福島駅前清掃) をしてから福島成蹊高校で県北の J R C メンバーとの交流会をしました。朝採ったリンゴは交流会の昼食でみんなと一緒に食べました。ジェフ君に、ダニカさんがリンゴを採ったと伝えると驚いていました。

最終日の夜は、二日後がダニカさんの誕生日だったので誕生日会とお別れ会をしました。誕生日会はサプライズだったのでとても嬉しかったらしく、ダニカさんが泣いていました。

フィリピンメンバーを受け入れることが決まり、ダニカさんが来る前日まで食事はどうするかや誕生日会に何をあげるかなど少しの時間であげようかなど少しの時間を何をするかたくさん家族会議をしました。また家族も私も英語があまり話せないで不安でした。しかし、ダニカさんは日本食が好きで日本語も話すことができたのでとても安心しました。

このような貴重な体験がで



き、私も家族もとても感謝しています。また機会があれば良いなと思います。ありがとうございました。

## あとがき



第五十七号には学校公開の児童・生徒の様子、一〇〇文字提案の受賞者の声などを掲載しました。子ども達の生き生きとした姿を感じて頂けるのではないのでしょうか。お忙しいところ原稿をお寄せいただきました皆様、協力頂きまして皆様に感謝申し上げます。

# 赤十字救急法受講の状況について

青少年赤十字の実践目標の一つに「健康・安全」があります。今年度も多くの学校、団体が赤十字救急法を受講しました。(平成29年 1 月31日現在)

月日	学校・団体	受講者	人数
基 礎 講 習			
7月20日	尚志高等学校	JRC メンバー	21
7月25日	白河旭高等学校	JRC メンバー	29
7月25日	福島成蹊高等学校	生徒（2年生）	23
8月10日	県北地区高等学校青少年赤十字指導者協議会	県北地区 JRC メンバー	20
8月22日	福島成蹊高等学校	生徒（2年生）	41
8月23日	福島成蹊高等学校	生徒（2年生）	36
8月23日	福島県磐城第一高等学校	JRC メンバー	26
8月23日	東日本国際大学附属昌平高等学校	JRC 部員	12
養 成 講 習			
8月10日	県北地区高等学校青少年赤十字指導者協議会	県北地区高校 JRC メンバー	20
8月11日			
8月12日			
8月23日	福島県磐城第一高等学校	JRC メンバー	26
8月24日			
8月25日			
8月23日	東日本国際大学附属昌平高等学校	JRC 部員	12
8月24日			
8月25日			
短 期 講 習			
5月27日	白河市立みさか小学校	教職員	22
5月31日	郡山女子大学附属高等学校	生徒（3年生）	122
6月8日	郡山市立高瀬小学校	児童、保護者、教師	86
6月9日	青少年赤十字田村地区指導者協議会	田村郡・田村市内小・中学校教職員	44
6月9日	郡山市立朝日が丘小学校	教職員、保護者	54
6月11日	郡山市立東芳小学校	保護者、教員	67
6月12日	いわき市立好間第一小学校	保護者	20
6月13日	青少年赤十字東白川地区指導者協議会	教職員	20
6月14日	郡山市立緑ヶ丘第一小学校	教職員	24
6月14日	福島県立白河第二高等学校	生徒、教職員	24
6月15日	郡山女子大学附属高等学校	教職員	25
6月15日	いわき市立草野小学校	保護者、教職員	35
6月23日	青少年赤十字西白河地区指導者協議会	JRC 指導者（教師）	37
6月23日	白河市立信夫第二小学校	5・6年生児童、保護者、教職員	40
6月24日	白河市立白河第二小学校	教職員、保護者	52
6月24日	会津若松市立一箕小学校	教職員、保護者	55
6月24日	棚倉町立高野小学校	教職員、保護者	72
6月27日	福島市立余目小学校	教職員	10
6月28日	矢吹町立三神小学校	保護者	48
6月28日	三春町立三春中学校	生徒（3年生）	111
6月29日	三春町立三春中学校	生徒（2年生）	117
6月29日	福島市立福島第一小学校 PTA 教養委員会	保護者	15
6月29日	郡山市立永盛小学校 PTA	保護者、教職員	71
6月30日	三春町立三春中学校	生徒（1年生）	122
6月30日	いわき市立錦東小学校	教職員、保護者	27
6月30日	郡山市立桜小学校	教職員、保護者	52
6月30日	郡山市立高倉小学校	教職員、保護者	26
6月30日	白河市立五箇小学校	教職員、保護者	30
6月30日	郡山市立行健小学校父母と教師の会	保護者、教職員	22
7月1日	郡山市立行健第二小学校	教職員、保護者	54
7月1日	西郷村立羽太小学校	5・6年生、教職員、保護者	54
7月1日	二本松市立浜川小学校 PTA	5・6年生、教職員、保護者	80
7月1日	本宮市立白岩小学校	6年生児童、保護者、教職員	92
7月2日	田村市立瀬川小学校父母と教職員の会	教職員、保護者、児童	45
7月2日	郡山市立安子島小学校	教職員、保護者	35
7月2日	いわき市立小白井中学校	教職員、保護者、小中学生	15
7月3日	国見町立国見小学校	保護者	52
7月4日	郡山市立柴宮小学校 PTA	保護者、教員	75
7月5日	郡山市立樋小学校父母と先生の会	保護者、教職員	26
7月5日	郡山市立安積第一小学校	保護者	38
7月5日	福島市立平田小学校	教職員、保護者	27

月日	学校・団体	受講者	人数
7 月 5 日	伊達市立小手小学校	保護者、教職員、児童	46
7 月 6 日	郡山市立守山小学校	保護者、教職員	36
7 月 6 日	会津若松市立立新小学校	教職員、保護者	28
7 月 6 日	福島市立森合小学校	教員	23
7 月 6 日	本宮市立和田小学校	保護者、教職員	75
7 月 6 日	二本松市立原瀬小学校	教職員、保護者	24
7 月 7 日	福島県高等学校青少年赤十字指導者協議会	JRC メンバー (高校生)	61
7 月 8 日	福島県高等学校青少年赤十字指導者協議会	JRC メンバー (高校生)	18
7 月 8 日	三春町立中郷小学校	保護者、教職員	49
7 月 8 日	福島市立下川崎小学校	教職員、保護者	26
7 月 8 日	三春町立三春小学校	教職員、保護者	47
7 月 8 日	三春町立沢石小学校	保護者、児童、教職員	93
7 月 8 日	福島市立立子山小学校	児童、保護者、教職員	38
7 月 8 日	福島市立松川小学校 PTA	JRC メンバー保護者、教職員	130
7 月 9 日	田村市立栗田小学校	教職員、保護者	45
7 月 9 日	白河市立白河第五小学校	教職員、保護者	73
7 月 12 日	郡山女子大学附属高等学校	生徒 (1 年生)	90
7 月 12 日	郡山市立富田東小学校	保護者	49
7 月 12 日	鏡石町立第二小学校	教職員、保護者 5・6 年児童	74
7 月 13 日	郡山市立二瀬中学校	JRC メンバー、教職員	47
7 月 13 日	福島市立大森小学校	教職員	26
7 月 13 日	猪苗代町立緑小学校	保護者、教職員、6 年児童	60
7 月 15 日	須賀川市立岩瀬中学校	JRC メンバー、教職員	158
7 月 20 日	須賀川市立大森小学校	教職員、保護者	13
7 月 20 日	郡山市立熱海中学校	教職員	13
7 月 25 日	白河市立白河第三小学校	教職員、保護者	36
7 月 27 日	青少年赤十字耶麻地区指導者協議会	小学生、中学生、教職員	69
7 月 28 日	県立郡山養護学校	教職員	47
7 月 28 日	県北地区青少年赤十字指導者協議会	①児童 ②小・中学校教師、高校生、奉仕団員	32
7 月 29 日	県立郡山萌生高等学校	教職員	40
7 月 29 日	青少年赤十字会津若松・北会津地区指導者連絡協議会	JRC メンバー、教職員	74
7 月 29 日	青少年赤十字両沼地区指導者協議会	JRC メンバー	79
7 月 29 日	青少年赤十字いわき地区小中学校指導者協議会	JRC メンバー、教職員賛助奉仕団員	77
8 月 9 日	青少年赤十字郡山地区指導者協議会	小・中学生	78
8 月 10 日	会津地区高等学校青少年赤十字協議会	会津地区 JRC 生徒、教職員	25
8 月 17 日	青少年赤十字西白河地区指導者協議会	小・中学生、教員、保護者	42
8 月 24 日	福島市立西信中学校	教職員	19
9 月 1 日	白河市信夫第一小学校	児童 (5・6 年生)、教職員	45
9 月 13 日	いわき市立江名中学校	中学生 (3 年生)	67
9 月 13 日	相馬市立中村第一中学校	1 年生	61
9 月 14 日	相馬市立中村第一中学校	1 年生	62
10 月 25 日	白河市教育委員会	白河市立小・中学校の養護教諭	12
11 月 29 日	福島市立西信中学校	2 年生	60
<b>水 上 安 全 講 習</b>			
6 月 25 日	郡山市立薫小学校父母と教師の会体育館	保護者	67
7 月 5 日	大玉村教育委員会	教職員ほか	25
7 月 8 日	須賀川市立白江小学校	保護者	44
7 月 9 日	大玉村教育委員会	教職員ほか	12
7 月 13 日	熱塩加納赤十字奉仕団	熱塩加納赤十字奉仕団員・生徒	59
7 月 15 日	郡山市立薫小学校プール	教職員	14
7 月 21 日	本宮市立本宮まゆみ小学校プール	教職員	9
8 月 2 日	国見町・国見町赤十字奉仕団	児童	54
9 月 8 日	浅川町立山白石小学校プール	児童・教職員	31
9 月 12 日	いわき市立好間第一小学校プール	児童	47
<b>健康生活支援講習 支援員養成講習</b>			
4 月 4 日・5 日	青少年赤十字県北地区高等学校指導者協議会	県北地区高校 JRC メンバー	30
<b>健康生活支援講習 短期講習</b>			
8 月 9 日	青少年赤十字福島県指導者協議会	JRC 加盟校指導者	65
<b>健康生活支援講習 災害時高齢者生活支援講習</b>			
7 月 7 日	田村市立船引南中学校	1 年生	24